

吉川昌範・山田克則

Masanori YOSHIKAWA, Katsunori YAMADA

=====自動実行MACRO=====	#個表	
GNAUTOEXEC'rt'mnメニュー'	#AUTOEXEC	
1/自動実行	2/中止	3/F1/E読み込み
GRで開始します。	MACROの実行を中止します。	HYOU1.PRNを読み込みます。
'goSTART'	'goMACROEND'	'goSTART2'
 BDATA1'rt 'ifISNUMBER(FILENAME)''goMACROEND' #VALUE! PC112%'tb112%'rtOPRINTDATA1'rt'rt 'leNO'NO+1''goSTART' QY 'qu	 #START; DATA CLEAR #DATA READ #PRINT #QUIT #MACROEND 5 #NO 0 #FILENAME #以下TABLE2 1 hyoul.000 2 hyoul-2.000 3 hyoul.001 4 hyoul-2.001 : :	 BTABLE2'rtGNNO'rt1'rt TOT'rtTLB:MP_1HYOU1.PRN' tbTABLE2'tbN'tb'tb'bs'bs'bs'bs'bs,'rt 'goAUTOEXEC'

図2 マクロの一例

4 まとめ

今回、公共用水域水質データの電算処理システムの一部をワークステーションからパソコンに移植したことにより、他部所等における水質データの有効活用がより図れるものと思われる。

また、帳表をマルチプランで作成するようにしたことにより、目的に応じた帳表様式の作成・変更が簡単に行えるようになった。

今後は、経年変化グラフ作成等のパソコンへの移植を検討するとともに、環境庁報告用フロッピー作成にあたっては、環境庁が平成6年6月に示した新しい標準フォーマットへの対応を図っていく予定である。

参考文献

- 1) 落井 勲他：公共用水域水質データの電算処理，福井県公害センター年報，**11**，p. 150-155，1981.
- 2) 落井 勲他：公共用水域水質データの電算処理について（第2報），福井県公害センター年報，**13**，p. 142-145，1983.
- 3) 田賀幹生他：水質データの電算処理について，福井県環境センター年報，**20**，p. 166-170，1990.

測定地点別総括表(1)

[illegible]

図3 マルチプランによる打ち出し帳表の一例